



弘前大学同窓会報

第17号

発行日 平成28年3月1日
発行者 弘前大学同窓会
題字 吉田 豊 元学長

同窓会長就任のご挨拶と今後の抱負

同窓会会長 西澤 一治



長より指名を受けまして副会長に就任し、二十七年の役員改選で三上会長の後任に選出され、就任致しました。

ご挨拶
平成二十七年四月二十五日の理事会におきまして任期満了に伴う同窓会役員改選が行われ、三上翼前同窓会会長の後任として新会長に推挙され、就任致しました社団法人医学部同窓会理事長の西澤一治です。弘前大学同窓会会員の皆様へ一言ご挨拶を申し上げます。

わたしは一九六五(昭和四十)年四月に弘前大学に入学、一九七一年(昭和四十六)年三月に卒業致しました。当時はまだ旧制弘前高等学校の校舎、講堂、学寮などが残っていた時代で入学式も講堂でありました。新しい学舎が立ち並び綺麗に整備された現在のキャンパスを見ますと隔世の感があります。

平成三年、医学部の同窓会である鵬桜会の理事、平成九年に常務理事を命じられ、平成十一年の弘前大学全学同窓会設立の際に、当時の石戸谷折一鵬桜会理事長とともに弘前大学同窓会の理事に就任致しました。平成二十三年、石戸谷先生の後を受けて鵬桜会理事長に選出され、同年、当時の三上翼前大学同窓会

初代会長の東海林恒雄氏(東京同窓会会長、当時)、二代目の三上翼氏(農学生命科学部同窓会会長、当時)と、誰もが認める傑物のお二人がまとめ育て上げてこられたこの弘前大学同窓会に、新会長として就任致しましたが、お二方のように精力的かつ見事なマネージメントの力を持ち合わせない私としては、はなはだ心許なく不安で一杯であります。お二方のように整然と遅滞なく努めてゆくのは望むべくもありませんが、自分なりにその役割を精一杯努力して行きたいと思っております、よろしくお願ひ申し上げます。

学部記念式典
平成二十七年度は三学部がそれぞれ節目の年を迎えて記念の行事が執り行われました。七月四日に農学生命科学部創立六十周年記念式典、九月二十六日に人文学部創立五十周年記念式典、十月十七日に理学部・理工学部創設五十周年記念式典が開催され、何れも学部の歴史と輝かしい業績が紹介され、充実の現況と今後の発展に向けての抱負が語られました。これらの詳細は会報の各学部の欄でご覧頂けると思いますが、記念式典・記念講演、そして祝賀会に出席して感銘を受けたのは、卒業生の皆様の弘前大学に対する自負と出身学部への誇りと愛情であります。これは出席された卒業生のみならず、職員・在校生達もあらためてその思いを強くしたのでないでしょうか。

同窓会の活動と今後の所信について
今後の弘前大学同窓会活動方針に付いて私の所信を述べます。
この会の目的は、会則に記載されている通り各学部の同窓会の相互啓発、大学の教育研究活動の支援、そして各同窓会と大学の発展に寄与することであり、会の運営財源はすべて各同窓会からの負担金、即ち会員の皆様方からの会費で賄われています。事業の主なものには会報発行であり、その他に大学及び各学部からの支援要請に基づいて予算執行してはいますが、来たるべき大学の大きな記念行事に備えて準備金の積み立ても考慮してまいります。また、現在までの時点では学生の教育研究または奨励への寄与はございませんが、同窓会の目的の趣旨に基づいて大学の学生顕彰事業に同窓会も参加してはどうかと考えております。
勿論この目的を進めて

弘前大学は主として地域活性化の中核的拠点としての役割を果たすことを基本としています。平成二十六年度から文科省は、①主として地域貢献を目指す大学②特徴的な教育研究を実施する大学③世界レベルの教育研究を実施する大学の3類型に分けて国立大学の機



弘前大学の教育の在り方について

弘前大学長 佐藤 敬

能強化支援を進めることとしました。そんな中弘前大学は胸を張って①の枠組みを選択した訳ですが、これは今に始まったことではなく、吉田元学長は「世界に発信し、地域と共に創造する」弘前大学をスローガンとして定められ、遠藤前学長は「日本一の地方大学」を

域に引きこもった活動に終始するとうわけではありませぬ。研究については言うまでもありませんが、教育においても、世界を視野に入れて活躍する人材の育成を目指すことが必要です。今や、地域の産業や経済は世界とつながっており、その傾向はますます大きくなっていくはずで、青森県の主要産業は一次産業ですが、農水産物の多くは原材料のまま出荷されておき、加工品としての価値を付加する余地がまだまだあると思いま

す。そして、リングの海外展開もさらに拡大されなければならず、また、海外展開の可能性はリングに限るものではありません。この地域の製造業をはじめとする二次産業を高度な学問へと導く動機付けの役割を放棄してはなりません。自治体等が力を入れていっているツーリズムに関して言えば、海外からの観光客も増えつつありますが、これらはもっと増やしていかなければならず、この地域の観光資源は未開拓のものが多いです。そのため、大学としてもできることがあるはずで、これらは一部に過ぎず、今後、地域の活性化を目指すにあたって、世界的視点に立つことが重視されるべきであることは間違いありません。

学問が日々進歩を遂げ、知識の蓄積が進むにつれて、真の高等教育の場は大学院に移行せざるを得ません。最近では、大学院修了者の採用枠を設ける企業もあり、大学院には社会人の学びの機会を提供する役割も期待されています。時代の潮流として大学院の充実を目指すことも必然です。若年人口の減少や国が財政の収支均衡を目指す中で、運営費交付金の減額、学校教員数の削減など、大学の在り方を根本から問いかねない課題は数多くあります。しかし、弘前大学としては、大学教育の本来の行く末を見失うことなく、地域の大学としてあるべき姿を追求していきたく念じています。



いくためには、全国の弘前大学卒業生の皆様のご協力とご理解が必須であります。同窓会理事・幹事の皆様との討議を重ねて、適切な事業・運営を図っていきたく思っておりますので、どうか宜しくご支援の程、お願い申し上げます。

このような基本に則って、大学教育の在り方としては、ますます地域との連携が強化され、課題解決型の自主学習の比率が大きくなっていくものと思っております。そのような経験を育てた人材が、どのような場で、どのような目標を持って自己陶冶を続け、どのような仕事を担っていくのかは結局は個々の問題であって、人材育成の方法論によるわけではないと思っております。しかしながら、高等教育が実践的成果を求め、疑問が社会にあるのも事実です。少なくとも、既に現在の大学教育は教育の最終段階としての役割を果たしてはいない、言い過ぎでしょうか？

多様な学びの中から、実践的キャリアを選択する人材や、さらに高度な学問に進む人材が育っていくことが望ましいと思えます。私たち教員は、学生を高度な学問へと導く動機付けの役割を放棄してはなりません。自治体等が力を入れていっているツーリズムに関して言えば、海外からの観光客も増えつつありますが、これらはもっと増やしていかなければならず、この地域の観光資源は未開拓のものが多いです。そのため、大学としてもできることがあるはずで、これらは一部に過ぎず、今後、地域の活性化を目指すにあたって、世界的視点に立つことが重視されるべきであることは間違いありません。

理工学部



学部五十周年記念事業報告

理工学研究科 助教 一條 健司

(理工学部同窓会幹事)
(平成6年 理工学部情報科学科卒)

去る平成二十七年十月十七日と十八日、前号の同窓会報でもご案内いたしました、理工学部・理工学部創設五十周年記念事業が理工学研究科、理工学部同窓会、理工学部後援会の共催で行われました。本会報の編集委員として、記念事業にご来場いただけなかった方々に向け少しでも当日の様子をお伝えすべく報告記事の掲載を考えておりました。その記事の執筆は本来、記念事業実行委員会

のしかるべきお立場の方にお願ひするのが筋と存じますが、一委員に過ぎない私が執筆しますことご了承いただければ幸いです。

十月十七日、会場である理工学部一号館第十講義室の入口受付にて、来場の皆様へ五十周年記念リーフレット、過去三年分の弘前大学同窓会報と理工学部同窓会報、弘前大学基金の小パンフレット等が配布されました。記念リーフレットには、

記念事業プログラム、宮永崇史研究科長、千葉信行理工学部同窓会長、三浦賢二理工学部後援会長のご挨拶、理工学部・理工学部の沿革と歴代学部長一覧、十数枚の写真でみ

る五十年のあゆみ、記念講演の要旨が掲載されており、式典開始までの間、来場の皆様にゆつくりとご覧いただけました。午後一時三十分、石塚絵里子青森朝日放送アナウンサー(理工学部情報科学科卒)の司会進行で記念式典がはじまり、齋藤伸雄事務長の開式の発声の式辞(四ページ中央、理工学部写真)、佐藤敬学長のご挨拶を頂戴しました。続いて、ご来賓の方々から三村申吾青森県知事(藤岡正昭中南地域県民局長代読)、葛西憲之弘前市長(山本昇経営戦略部長代読)、東康夫青森県工業会会長より、

ない頃の理学部の様々な興味深いエピソードを、在学生のことはとして理工学部四年の伊藤厚さんから現在の学び舎での学生生活についてお話をいただきました。

午後三時から記念講演会が行われました。はじめに浅田秀樹教授より「アインシュタインの一般相対論誕生100周年」と題し、次に稲村隆夫教授より「弘前大学理工学部誕生と私の研究活動」と題した、二件の大変興味深い講演をいただきました。記念式典・記念講演会には延べ約百七十名のご出席をいただきました。

午後五時三十分からは、改築間もない学生会館のレストランスコアムに場所を移し祝賀会が開催されました。宮永研究科長のご挨拶、千葉同窓会長の乾杯のご発声の後、郷土食材の料理を肴に弘前大学ラベルの日本酒を酌み交わしながら、懐かしいお顔同士の歓談がはじまりました。弘大囃子組による青森県内各地の祭り囃子の余興(四

ページ中央、弘大囃子組写真)を挟み、佐藤裕之副研究科長の閉会のご挨拶と、三浦後援会長の一本締めで盛会のうちに閉会となりました。翌十月十八日には、好天の中キャンパスツアーが開催され、約四十名のご参加をいただきました。うちに終了しましたが、末筆となりましたが、ご参加いただいた皆様に心より感謝申し上げます。第です。

農学生命科学部



学部創立六十周年記念事業と学部改組について

前農学生命科学部長 佐々木 長市

同窓会ならびに関係の皆様には、平素より学部に対するご協力等をいただき心より感謝申し上げます。地方大学の大きな使命として地域貢献の認識がますます高まり、地域から必要とされるより良い大学及び学部づくりには同窓生各位のご協力は、欠かせないことと思っております。

さて、平成二十七年で本学部が創立されて六十年となり、七月四日には、皆様の御蔭で学部創立六十周年記念事業を無事終了することが出来ました。ひとえに、同窓会各位ならびに後援会各位の多大なるご協力とご理解の賜物と深く感謝申し上げます。今回は、これまでの十年の記録を残し、皆様と学部の今後を考えると、学部の還暦を祝う形で進めてまいりました。具体的な事業として、記念式典ならびに祝

賀会、同窓会員あるいは関係者による記念講演、六十周年記念誌の刊行、六十周年記念事業として学生の海外研修補助などを実施しました。式典には、三村申吾青森県知事、葛西憲之弘前市長、学部間協定を結んでいる中国農業大学の李天紅副院長からご祝辞をいただき、

りんごや長いもなどの農産物や、マグロやなまこなどの水産物素材の商品価値を高め、地域の収益を向上させ、定住人口の増を最終目的とした加工食品などの産・創出が出来る人材や、食に関する基本的な知識を持つて地域の食産業に貢献できる人材の育成を、改組の一つ目の柱としました。また、今日の農業では、農産物の世界展開や、国内需要の拡大が期待できない現状を打破する打開策が求められております。青森県農業の成長産業化を推し進めるうえで、グローバルに活躍できる人材あるいは農産物の取引に強い人材の養成は重要と考え、二つ目の柱としました。こうした地域の特性や要請を踏まえ、これまでの生物資源学科に食品コースを増設(学生数二十名増、教員数十名増)し、学科名を食料資源学科と改称します。これまでの園芸農学科には、

国際的な農産物の取引に精通した教員三名を増員し、学生定員も十名増やし、学科名を国際園芸農学科と改称します。この学科では、二次次に学生全員を一週間程度の期間海外研修させることを必修としております。このほかの学科も選択ですが、海外研修を実施します。

農学生命科学部のさらなる発展にむけて努力して参りますので、同窓生の皆様の変わらぬご支援をお願い申し上げます。最後に、皆様の益々のご健勝とご活躍を祈念申し上げます。



弘前大学農学生命科学部創立60周年記念式典・記念講演会場

弘前大学は平成二十八年高校での成績、評価で合否度から理系の人材育成、文を定める推薦入学を廃止。理融合型教育の強化を柱と代わって面接や小論文を通した学部再編がスタート。して入学者を選考するアドミッション・オフィス(A)入試を導入します。学部により入学定員が増減し、人文学部は人文社会科学部に名称が変わります。次に再編に伴う各学部の入学定員は、人文社会科学部が八十人減の二百六十五人、教育学部は七十人減の百七十人、理工学部は六十人増の六百六十人、農学生命科学部は三十人増の二百十五人になります。この結果、全学部定員は千三百八十二人から六十人減って千三百二十二になります。医学部は学部再編ありませ

また、平成二十九年度からは全学部で実施してきた

平成28年度学部再編スタート 人材育成の強化図る

弘前大学は平成二十八年高校での成績、評価で合否度から理系の人材育成、文を定める推薦入学を廃止。理融合型教育の強化を柱と代わって面接や小論文を通した学部再編がスタート。して入学者を選考するアドミッション・オフィス(A)入試を導入します。学部により入学定員が増減し、人文学部は人文社会科学部に名称が変わります。次に再編に伴う各学部の入学定員は、人文社会科学部が八十人減の二百六十五人、教育学部は七十人減の百七十人、理工学部は六十人増の六百六十人、農学生命科学部は三十人増の二百十五人になります。この結果、全学部定員は千三百八十二人から六十人減って千三百二十二になります。医学部は学部再編ありませ

また、平成二十九年度からは全学部で実施してきた

また、平成二十九年度からは全学部で実施してきた

また、平成二十九年度からは全学部で実施してきた

また、平成二十九年度からは全学部で実施してきた

人文学部



過去から学び、未来を見すえ、 現在を生きる

50年の歩みと新学部設置によって

人文学部長 今井 正浩

弘前大学人文学部は、北東北における人文社会科学系の主要な学部の一つとして、人文社会科学を志望する学生諸君、海外からの数多くの留学生諸氏をお迎えし、この分野の学習研究のための場を提供してきました。

その前身は一九二〇年に創立され、若き日の太宰治(津島修治)も学んだ官立弘前高等学校です。人文学部は「人文社会科学に関する教育と研究を行い、この分野の優秀な人材を育成すること」を目的として、一九六五年に設置されました。以来、五十年という長きにわたって、北東北における人文社会科学分野の教育研究の中心拠点の一つとして、青森県内はもとより、北東北地域から北海道地域を中心に活躍する有為な人材の育成に努めてきました。

この間、一九九八年には人文学科・経済学科から構成される二学科制から、人間文化課程・社会システム課程・情報マネジメント課程を擁する三課程制へと移行しました。二〇〇五年には、社会システム課程を現代社会課程に、情報マネジメント課程を経済経営課程に改称するとともに、現行

の十コース制を導入いたしました。また、亀ヶ岡文化研究センター・雇用政策研究センターという二つの特定プロジェクト教育研究センターが人文学部内に設置されました。二〇一四年四月には、雇用政策研究センターの実績をベースに、青森県と周辺地域の文化資源の開拓・調査、地域のグローバル化推進、雇用問題への取り組みや防災等、地域社会との一層の連携強化をめざすセンターとして、未来創生センターが新たに設置されました。亀ヶ岡文化研究センターについては、青森県と周辺地域に分布する埋蔵文化財の発掘調査・保存等を中心とする教育研究を強力に推進するという目的のもと、北日本考古学研究所と連携して拡充強化されました。

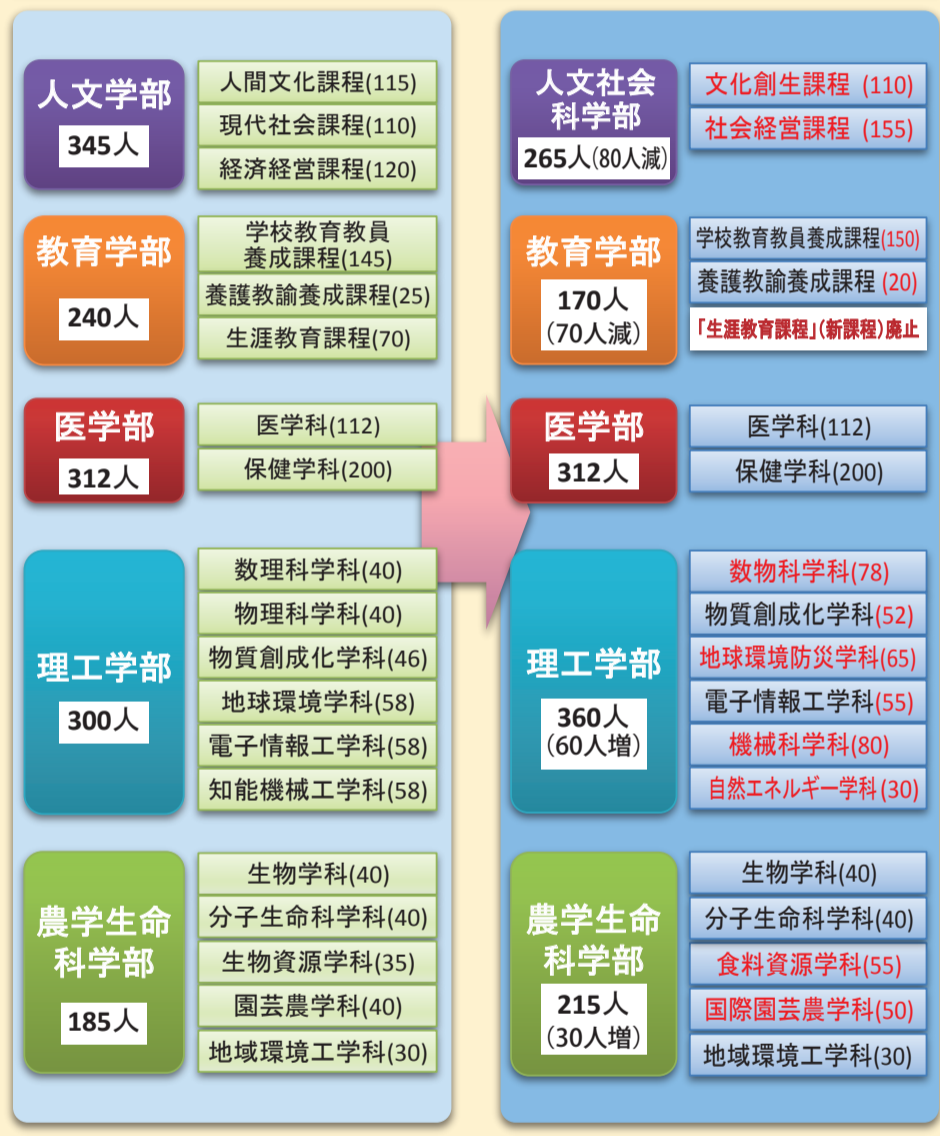
このように、幾度かの教育制度改革や教育研究機能の重点化をへて、弘前大学人文学部は、人文社会科学分野の教育研究組織としての役割と機能を強化することによって、弘前大学が「世界に発信し、地域と共に創造する大学」としての教育研究理念にもとづく社会的使命をはたしていく上で、重要な役割を担ってこ

ことができたわけでは、二〇一五年九月二十六日には、弘前大学長の佐藤敬先生をはじめ、副学長・理事、部局長・研究科長、弘前大学教職員、弘前大学名誉教授、学内外の多数の方々のご臨席のもとで、人文学部創立五十周年記念式典を開催することができました。この式典には、弘前大学との大学間協定校の一つであるポルドーモンテニュー大学より、エディ・デュフルモン氏をお招きし、「中江兆民におけるフランスの共和主義に関する一考」と題する記念講演をしていただき、無事終了することができました。

弘前大学人文学部は、二〇一六年四月より、人文社会科学部 (Faculty of Humanities and Social Sciences) という新学部

に改組されます。わたしたちが新学部を設置する目的は、きわめて明確であります。現在、人文学部が担っている人文社会科学分野の教育研究の実績を最大限に活かしつつ、多様性認識のもとで、地域文化を含めた自国の文化的価値を発信する力、地域課題を含めた現実の課題を解決するため、実践力をそなえた、次世代の担い手となりうる人材を育成していくことにあります。新学部のこの目的は、過去から多くを学び、未来をしっかりと見すえながら、現在(いま)を生きていくという、私たち人間本来のあり方にしっかりと根ざしたものであると考えています。

平成27年度 → 平成28年度



教育学部



歴史となる『奈良通信』 三〇〇号を目指して

教育学部同窓会 副会長 奈良 年永 (昭和38年 心理学科卒)

平成十二年三月に定年退職してから、退職後の生き方を模索しつつおよそ一年、偶然にも次のような文に出会い魂を覚醒させられたのです。「人は退職後の生き方こそ、その人の真価だといってよい。退職後は、在職中の三倍ないし五倍の緊張感をもって晩年の人生と取り組まねばならぬ」(森信三語録、心魂にひびく言葉 致知出版社) 森信三

先生ほど定年退職後の生き方について力説された人は少ないのではあるまいか。定年とは公生涯の「死」を意味する。それゆえ定年をもって、死亡の予行演習と心得て、その準備を為すべきなり、少なくとも十年ほど前から、ともいっておられます。正に凄絶そのものの生き方を唱っておられます。さらに、森信三先生は、教育とは流水に文字を書

くような果敢のない業であるから、それを厳壁に刻むような真剣さでもって取り組まねばならない。そしてまた、教育とは心の扉を開くことであり、魂の開発でもある。心耳への種まきであるとも述べておられます。

私の専門とする受容と共感を基盤とする生徒指導・教育相談の原理にもまさに合致することなどを経緯から、大いに触発され、人を慰められたり、喜ばせたりでき、縁を深めたり、更に自分の考えなり、言葉を磨くことができることから、一人通信を制作することを決意し、平成十四年四月によりやく、私家版教育情報誌月一回発行の『奈良通信』の創刊に漕ぎ着けることができた次第であります。

困惑する教育論を理解するための、先知先哲の遺訓からその思いや願いを紹介することにより、そこから今日的な指針を認識できることを願って編集してきたつもりであります。もとより、安岡正篤師・松下幸之助翁をはじめとする聖賢に学ぶものであります。

継続は無限でありま



「附属弘前中学校」正面玄関にあった赤黒松と附属中跡地の標柱(弘前城植物園)



創立時の教育学部校舎(現・ピクニック広場)近くに跡地の標柱と記念樹がある

二〇一五年、弘前城天守の曳屋で全国的に話題となった弘前城跡。その三の丸には、教育学部の記憶が残っている。

医学部医学科



「弘大ファイル」 47年の歴史に寄せて

医学研究科内分代謝内科学講座
准教授 二川原 健
(平成5年卒)

立派な大学には立派なオーケストラがある、とは遠藤正彦前学長のお言葉です。東大、京大、ワセオケ(早大)、ワグネルソサイエティ(慶大)、いずれも百年の歴史を誇り、学内の公式行事を彩るほか、大学の看板を背負って毎年全国ツアーをやつてのけます。Harvard Radcliffeオケという団体は創立二百年で、やはり海外ツアーをやります。



「弘大ファイル」
47年の歴史に寄せて
この辺境の地にオケ文化が立ち上り、現在まで続いていること自体が奇跡です。創立から昨春まで長年ご指導下さった安達弘潮名誉教授の多大なご尽力をその原動力として、各世代の熱意とノウハウの継承があつて

実現しました。児童合唱共演の『花は咲く』を含む感動的な演奏会となり、NHKで全国報道されました。私と同期の耳鼻科医、石井賢治先生が支援者獲得に文字通り東奔西走されました。いわき市では昭和五十卒の石井正三先生・敦子先生ご夫妻が元締めを下さいました。参加者は欧米や台湾から六十五人、日本から二十五人と大盛況。うち九人が弘大ファイルOB、各人が日常の臨床・研究をやり繰りして集合、という弘大勢の結束ぶりでした。医学・音楽ともに人を癒やす、という信念の産物だと思います。

半は学生の金崎惣一さん、後半は今廣志先生(昭和四十九教育学部卒)が指揮者を務められました。いずれも百余名の奏者達が感性を研ぎ澄ませた渾身の演奏でした。学生にとつて自分達の能力を結集して聴衆に訴える一つの音楽を作り上げる経験、および大所帯の運営に携わる経験は、各人の糧となること間違いありません。一方大学にとつて管弦楽団は、大学の文化水準や品格を象徴する存在として大切に育てられるべきものと思えます。団員にはその矜持が求められます。

今後も、弘前の立派な大学の、立派なおけであること、立派なオケであり続けて下さい。
(参考文献: 宮沢賢治『告別』)

医学部保健学科



改修工事を終えて

医学部保健学科
助教 三上 佳澄
(平成18年 看護学専攻卒)

二年半にわたり改修工事が行われた保健学研究科舎が平成二十七年九月二十九日ようやく竣工しました。現在の校舎はA棟(事務室、大会議室等)があった建物、B棟(看護学専攻の実習室、検査技術科学専攻の実験室等)があった建物、C棟(教員の研究室が多数あった建物)、D棟(実験室や研究室があった建物)、総合研究棟(今はE棟に名称変更)の他に、新たにF棟が建設されました。



新たな飛躍

3学部で創立記念式典



農学生命科学部



人文学部



理工学部



弘大囃子組

農学生命科学部の創立六十周年記念式典は平成二十七年七月四日、創立五十周年記念式典は九月二十六日、年記念会館で教職員、同窓、ホテルニューキャッスルで式典は理工学部の創設五十周年記念式典は九月二十六日、式典は理工学部講義室で約百七十人が参加して開かれました。宮永崇史学部長からは「今後の新理工学部の更なる発展と地域との関係強化を図ります」と式辞がありました。

スや就職に関する資料の保管や閲覧ができる就職支援室なども新たにつくられました。講義、演習、実験などの教育施設以外にも学生が充実した学生生活をおくることのできるような環境が整い、アメニティーの向上がなされています。

このように校舎が改築され、外観は新しくなりましたが、医学部保健学科は医療技術教育や高等学校の看護教員養成機関としての長い歴史と伝統があります。医学部保健学科は、それまでの弘前大学医療技術短期大学部(昭和五十年四月設置)と弘前大学教育学部特別教科(看護)教員養成課程(昭和四十三年四月)を統合して新しい学科として設置されてから十数年が経過しました。また短期大学部は医学部附属の看護学校・助産婦学校、臨床検査技師学校、診療放射線技師学校を改組し、理学療法科、作業療法科が加わったものです。私が保健学科の二期生として在学していた当初はあまり実感がありませんでしたが、教員となり、看護学を教育する立場になった今、卒業生がどのように学んできたのか、また自分たちが教わったことがどのよう

東京同窓会



東京同窓会会長 津田 良司

最期まで

気概を持って生きる

私は、一昨年に介護初任者研修を終了し、小規模多機能型施設での仕事を半年経験しました。この経験でいつかADL（日常生活動作）を自分で行えなくなった時、最も大切な事は、個々の自律性と尊厳ある生活環境を守ることだと知りまし

歌祭もありました。写真は、旧制弘前高校開校九十周年（二〇一〇年）の年の全国寮歌祭の

写真です。故東海林恒雄弘前大学同窓会長や故五十嵐孝平東京同窓会長も写っています。旧制弘高同窓会長の前島郁雄氏、前会長の小池明氏もいまだ健在です。また、「都も遠し」ののぼりを持っていらつしやるのが、故山田榮一先輩です。山田氏は旧制弘高の寮歌・部歌、全数十曲すべてを知り、その云われ、歌詞の細部までも事細かに調べられた方でした。奥様の処に

寮歌祭でお会いする先輩も今八十五歳以上の方々です。皆さんは、弘前の仲間や他校の方と会うことで元気を保っているとおっしゃっています。全国の寮歌祭も少なくなりましたが、北海道や九州でも開催され、秋田能代では、医学部卒の工藤茂宣先輩の主催される寮



寮歌祭

はそのさまざま資料が残されています。弘高時代は全寮寮長もされました。癌で亡くなられたのは二〇一二年のことでした。亡くなる二日前まで身の回りのことはすべてご自身で行い、自分の葬式の段取りを済ませられ、式で歌う寮歌の順番まで決めていらつしやいました。亡くなる前日、訪問医の先生に、「もうこの辺で良いでしょう」と、延命措置を断り次の日に、静かに息を引き取られました。出棺時は、弘高の羽織袴姿で旅立たれました。先輩は会うたびに「はつらつとされ、高齢であることを感じさせませんでした。」

山田氏の二〇一〇年の寮歌祭の様子は、東京同窓会のFacebookに投稿されています。この時のことは昨日のように思い出されます。老いることは自然なことですが、山田先輩は、気概を持って生きることが自分を生きることが示されたように思えます。



全寮寮長 山田氏 (中央)

北浜寮リニューアル

全て個室、冷暖房も完備

弘前市緑ヶ丘にある北浜寮がリニューアルしました。この寮は鉄筋コンクリート四階建ての男子寮ですが、建築から五十年経過し老朽化したため、昨年改修工事を行いました。寮はこれまで二人部屋で収容人員は二百三十人でしたが、全一人部屋の個室とし収容人員も百六人になりました。このうち留学生用として十室を予定しています。

さらに百六室の中の一部屋を身障者対応室としています。床面積も一七・五平方メートルと広くトイレ、洗面所も設置してあり、より安心で快適な住居環境になっています。管理運営業務全般は大学が行い自治会は寮生活上の基本的ルール策定、維持を行うことになっています。



就職率97.7%過去最高

平成26年度卒業生

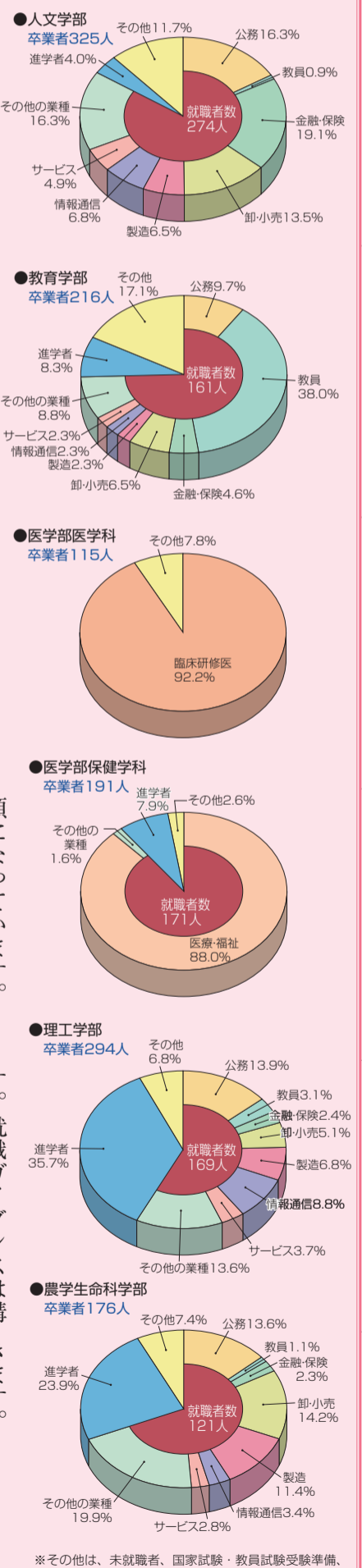
●就職率記録更新
平成二十六年年度卒業生の就職率は全学部で九七・七％を記録しました。これは前年度九七・四％を上回り、歴代一位の記録を更新したことになります。

各学部の就職率を見ますと人文学部九六・八％、教育学部九九・四％、医学部保健学科一〇〇％、理工学部九六・六％、農学生命科学部九六・〇％となっています。地域別の就職先は県内

が最も多く三〇・五％、次いで関東地方二四・八％、北海道一九・〇％、次いで岩手、宮城と続いています。業種別では医療・福祉が最も多く二〇・三％、公務員一五・五％、卸・小売り一〇・九％の順になっています。このように近年、就職率が水準で推移しているのは、十数年前に発足した学生就職支援センターの存在が大きいのです。センターの主な取り組みとしては、経験豊かな相談員による個別相談。模擬面接やエントリーシート添削を行って

支援センターの努力実る

す。就職ガイダンスは講義形式から少人数による実践的な演習をしています。さらに企業の人事担当者を迎えてのセミナー



※その他は、未就職者、国家試験・教員試験受験準備、専門学校入学等。

弘大ホームカミングデー実施

弘大卒業生や高校生の家族らに教育や研究成果を知ってもらうと平成二十七年十月十七日、弘前大学ホームカミングと題して八戸市と弘大間にシャトルバスを運行しました。



午後四時には弘前を出発し八戸に向かいました。参加者からは「いろいろ参考になることが多かったです」との声も聞かれました。

初の企画ながら地元弘前から四十七人が参加し、所期の目的を果たしました。二十八年度は開催中の総合文化祭をゆつたり、じっくり見てもらうため図書館二階のバルコニー開放も予定しています。

留学生の声

人文社会科学部研究科1年 黄少華 (中国)

交換留学生として弘前に来る前に、弘前はどこにあり、どんなところなのか。全然分かりませんでした。日本といえば、いつも東京や京都が頭の中に浮かびます。弘前から戻ったばかりの先輩に聞いてみたら、弘前が「雪が多い町で、冬が大変です」と言われました。しかし、ここで二年半ぐらゐの留学生生活を送ってみて、自分の体験で弘前



をみると、「温かい町」「綺麗な町」と思っています。弘前は「温かい町」初めて弘前に着いたのが二〇一三年四月六日の夜でした。私と友達が駅で道がわからない時にセンターの先生が迎えに来てくれて、声をかけてくれました。日本に着いたばかりで、知り合いはななく、土地も不案内だった時、信頼できる人が助け

てくれました。その時の気持ちは一生涯忘れられません。その後も、私たちは何度も道に迷ってしまいましたが、その度に目的地まで送ってくれる人がいました。外国で生活する時はきつといろいろな困難があるだろうと覚悟しましたが、弘前にいる一年間は、意外にすべが思い通りにいきましました。私はここで、優しい

人と出会って、温かい生活を送ることができたので、母国の大学を卒業した後、また弘前に戻って来て大学院に入りました。

弘前は「綺麗な町」弘前公園の桜を見たことがありますが、その桜は最高だと思っています。私はさくら祭りの時、ボランティアとして毎日公園にいきました。桜の蕾から花が落ちるまでの様子をすべて見ました。桜の花が枯れる前に落ちることは前にも聞いたことがありましたが、実際にそれを見ると、すごく感動しました。「舞い落ちる」という言葉の意味もすっかりわかりました。「わあ、綺麗だなあ」と思

ながら、毎年花見にいきます。

弘前でいろいろな日本の風土、文化を体験することができ、すごく嬉しです。弘前と出会って良かったです。

「吉田基金」TOEIC賞授与式



とし、審査をした上で、賞状と副賞を授与していただきます。

本年度は、人文学部四年の増田友希さんが九二〇点(九九〇点満点)のスコアで授賞し、二月四日に授与式が行われました。

西澤会長が「素晴らしい高得点で特にリスニングが良い。この賞の意味をかみしめ、国際的視野で社会でも活躍してほしい」と称えた。増田さんは「卒業後は英語教師になるが、子どもたちには英語を学ぶ喜びを知り、活躍出来るようになってもらいたい」と話した。

平成二十七年 弘前大学同窓会役員名簿

名譽顧問	吉田 豊	弘前大学元学長
顧問	遠藤 正彦	弘前大学前学長
顧問	佐藤 敬	弘前大学学長
顧問	三上 巽	弘前大学学長
顧問	西澤 一治	弘前大学学長
顧問	岡井 眞	弘前大学学長
顧問	千葉 信行	弘前大学学長
顧問	上田 敏雄	弘前大学学長
顧問	建部 礼仁	弘前大学学長
顧問	相馬 正栄	弘前大学学長
顧問	工藤 睦男	弘前大学学長
顧問	鳴海 晃	弘前大学学長
顧問	小山内 暢	弘前大学学長
顧問	千葉 満	弘前大学学長
顧問	三浦 賢二	弘前大学学長
顧問	一戸 洋次	弘前大学学長
顧問	板垣 宣志	弘前大学学長
顧問	小笠原 潤	弘前大学学長
顧問	糠塚いそし	弘前大学学長

平成26年度 弘前大学同窓会決算報告書

1. 収入の部		
項 目	平成26年度予算額	平成26年度決算額
前年度繰越分	2,257,422	2,257,422
同窓会費		
人文学部同窓会	241,500	241,500
教育学部同窓会	168,000	168,000
医学部医学科同窓会	74,900	74,900
医学部保健学科さくら会	140,000	140,000
理工学部同窓会	210,000	210,000
農学生命科学部同窓会	129,500	129,500
預金決算利息	400	408
計	3,221,722	3,221,730
2. 支出の部		
項 目	平成26年度予算額	平成26年度決算額
印刷費	350,000	341,778
役員費	266,546	267,099
会議費	40,000	38,229
旅費	5,000	0
通信費	10,000	7,760
消耗品費	3,000	0
雑費	30,000	2,418
予備費	2,517,176	2,564,446
計	3,221,722	3,221,730

平成27年度 弘前大学同窓会事業予算書

1. 収入の部		
項 目	平成26年度決算額	平成27年度予算額
前年度繰越分	2,257,422	2,564,446
同窓会費		
人文学部同窓会	241,500	241,500
教育学部同窓会	168,000	168,000
医学部医学科同窓会	74,900	78,400
医学部保健学科さくら会	140,000	140,000
理工学部同窓会	210,000	210,000
農学生命科学部同窓会	129,500	129,500
預金決算利息等	408	400
計	3,221,730	3,532,246
2. 支出の部		
項 目	平成26年度決算額	平成27年度予算額
印刷費	341,778	350,000
役員費	267,099	266,963
会議費	38,229	40,000
旅費	0	5,000
通信費	7,760	10,000
消耗品費	0	3,000
雑費	2,418	30,000
繰り越し・予備費	2,564,446	2,827,283
計	3,221,730	3,532,246

平成27年度 弘前大学同窓会事業計画

1. 事業内容		
(1) 大学現況内容等の会報(年1回)の発行		
(2) 各学部同窓会間の連絡調整		
(3) 弘前大学同窓会ホームページ活用業務		
(4) 大学関係催事等への後援・協賛		
2. 事業費		
(1) 印刷費	350,000円	
・会報印刷代		
(2) 役員費	266,963円	
・役員費 @1,117円×239時間=266,963		
(3) 会議費	40,000円	
(4) 旅費	5,000円	
(5) 通信費	10,000円	
(6) 消耗品費	3,000円	
(7) 雑費	30,000円	
事業費計	704,963円	

平成26年度 弘前大学同窓会「吉田基金」決算報告書

1. 収入の部		
項 目	平成26年度予算額	平成26年度決算額
前年度繰越分	2,299,305	2,299,305
預金決算利息	500	367
計	2,299,805	2,299,672
2. 支出の部		
項 目	平成26年度予算額	平成26年度決算額
TOEIC受賞者副賞	200,000	0
予備費	2,099,805	2,299,672
計	2,299,805	2,299,672

平成27年度 弘前大学同窓会「吉田基金」事業予算書

1. 収入の部		
項 目	平成26年度決算額	平成27年度予算額
前年度繰越分	2,299,305	2,299,672
預金決算利息等	367	400
計	2,299,672	2,300,072
2. 支出の部		
項 目	平成26年度決算額	平成27年度予算額
TOEIC副賞	0	200,000
繰り越し・予備費	2,299,672	2,100,072
計	2,299,672	2,300,072

FAX TEL
01172(3639)2132
01172(3639)2132
jms3490@hirosaki-u.ac.jp



委員長 中坪 勝
委員 大倉 邦夫 相馬 正栄
対馬 浩二 中村 光男
樋口 毅 小枝 周平
三上 佳澄 一條 健司
中澤 侃志 戸羽 隆宏
濱田 茂樹 津田 良司
伊森 英明 工藤 睦男

会報編集委員名簿

◇弘前大学同窓会は昨年の役員改選で西澤一治会長が就任、新体制がスタートした。西澤会長からは同窓会活動や今後の所信を表明して頂いた。また、勇退された三上翼前会長には改めて感謝と敬意を表したい。

◇昨年は農学生命科、人文、理工の三学部が節目の年を迎え記念式典が挙行され会報にも紹介されている通り。また、今春から学部再編がスタートするため特集でも取り上げた。理系増、文系減で定員は減るものの、佐藤学長が選出した「地域貢献を旨とした教育研究を向け邁進してほしい。(慕)

編集後記